

The image features large, bold, purple Japanese characters on a light blue background. The characters read "ご成人おめでとうございます" (Happy Coming of Age Day). The background is decorated with delicate pink cherry blossom petals and green leaves, creating a festive and traditional atmosphere.

1月8日、浪江町地域スポーツセンターにおいて、「マスクの着用」「『3密』の回避」「手指の消毒」など、徹底した「新型コロナウイルス感染症」対策の下、令和4年浪江町成人式が行われました。

今年の浪江町の新成人は211人。成人式に出席した46人は、『ふるさと浪江』で、家族や久々に再会した友人・恩師に見守られる中、将来への決意を新たにし、大人への第一歩を踏み出しました。



しっかり前を見据えて



新成人を代表して誓う

誓いの言葉

・新成人代表・
齊藤 希歩さん
(浪江地区)

本日、私たちが新成人としての第一歩を踏み出すにあたり、このような盛大な式典を挙行していただきますこと、心より感謝申し上げます。また、お祝いや激励のお言葉を賜りました吉田町長をはじめ、ご来賓の皆さま、本日ご出席いただきました皆さま方に、新成人一同を代表いたしまして、深く御礼申し上げます。10年前の東日本大震災、現在進行形で立ち向かっている「新型コロナウイルス感染症」などの苦難の中、人生の節目である成人式を、ここ“ふるさと浪江”で懐かしい友人たちと迎えられることを大変うれしく想います。

私たちが生まれた平成13年。この年を聞いて思い起こされるのがアメリカで起きた同時多発テロではないでしょうか。それから10年後の平成23年。東日本大震災が発生しました。そして、現状。新型コロナウイルスの脅威に立て続けた時代のように思います。

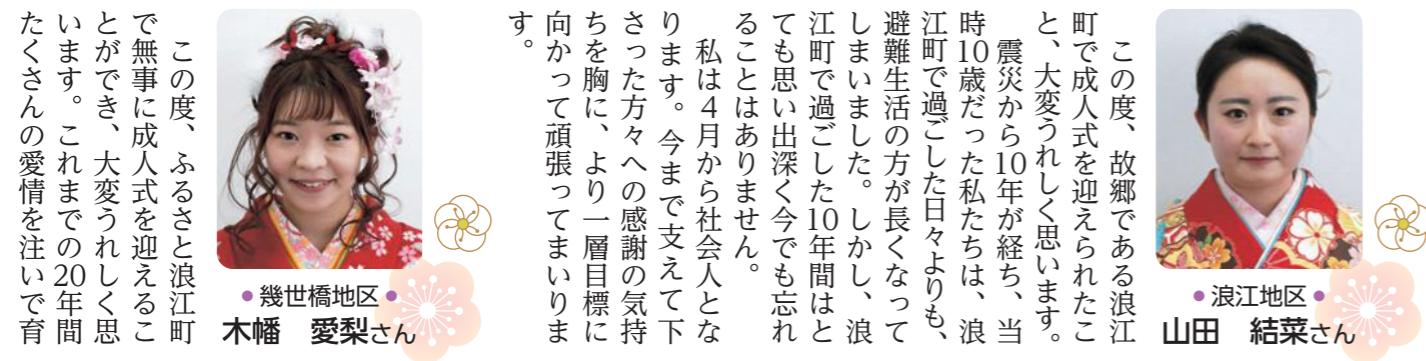
そんな多くの苦難の中、私たちは、家族はもちろん、友人や先生、地域の

方々など多くの人たちに支えられ生きてきました。私たちはより多くの人の暖かさを知っています。これから私たちが経験したような苦難が起きないとは限りません。そんな、将来起るかもしれない脅威に直面したとき、私たちにはこれまでに受け取った恩を返していく義務があることを肝に銘じなければなりません。

震災から10年という月日が経ち、あの日奪われた日常は新しい日常として取り戻した人も多くいます。それでもそんな新しい日常の中で浪江町のことを見忘れることはできません。世間では被災地が復興してきたとして報道される機会も徐々に減ってきました。しかし、私はそれを復興とは呼びたくありません。あの日のことを忘れられたら、あの日のことを語る人が誰もいなくなることは本当の復興なのでしょうか。

これから世界を担っていく私たちの世代。そして、あの未曾有の大震災を経験した世代としてあの日のことを心の中にしまう事。この経験を後世に語り継ぎ、東日本大震災を過去のものにしない事が私たちの義務なのではないでしょうか。本日成人式を迎えた私たちはそれぞれの道を歩み始めています。これからは行動の一つ一つに責任があることを自覚することはもちろん、私たちに課せられた使命を果たしていく事をここに誓います。

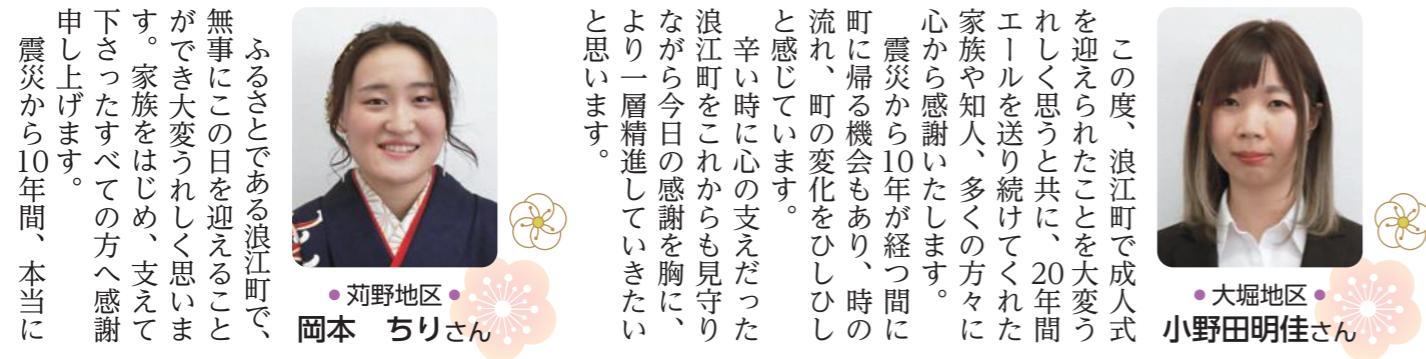
最後になりましたが、私たちはこの20年という月日の中で人の優しさ、力強さを学んできました。私たちはそれらを後世へと伝えられる新成人を目指す決意を申し上げ、誓いの言葉といいます。



・幾世橋地区
木幡 愛梨さん



●請戸地区●
大和田聖奈



・大堀地区・
小野田明佳さん



・津島地区・
福原 康平さ



間隔をあけて並ぶ新成人